

市政一般質問発言通告書（会派代表・個人）

令和 7 年 8 月 21 日

多治見市議会 議長 様



会派名 オールたじみ

6 番議員 氏名 成田 康弘

質問題名	想定外を想定する防災施策を促進 ～南海トラフと豪雨災害への備え～
質問要旨	近年、国内において気象状況や自然災害などに対し、「観測史上 1 位」「命に関わる危険な」「これまでに経験したことのない」などという言葉が繰り返し使われています。これまでに発生した大震災や豪雨・土砂災害は異なる災害ですが、これら全てが、私たちの想定を超えた被害が現実起きてきたということです。この夏も、各地で線状降水帯による豪雨が甚大な被害をもたらしました。また、初めて運用された「南海トラフ地震臨時情報」から 1 年が経過した今こそ、考えるべき課題が大いにありと強く感じる。だからこそ、「想定外を想定する」視点で防災施策を進めなければなりません。そのためには、行政主体の災害対応力整備、防災備蓄品・避難所の強化、地域の防災力を総合的に高めることが不可欠です。真に有益な大規模災害への備えが喫緊の課題であることから、①地震臨時情報の運用に対し本市の体制 ②災害備蓄品や指定避難所整備の現状と課題 ③防災士の養成・普及促進策を含む地域の防災力の現状と対策、今後の支援策や方向性について伺う。
質問項目①	災害リスクの現状認識について ・臨時情報が初めて発表されて 1 年が経過した。発表基準や想定される住民への影響など、本市はどのように認識し、住民への周知や対応マニュアル整備は進んでいるのか。 ・線状降水帯による豪雨や突風、猛暑など複合的な災害リスクが顕在化。これら災害全般に対する現状認識と避難行動要支援者名簿の整備状況について伺う。
質問項目②	災害備蓄品や指定避難所整備について ・大規模災害時の想定避難者数に対する 72 時間を乗り切るための水・食料・毛布・簡易トイレなどの数量をどう認識しており、今後の補充をどのように整備する予定か。 ・夏の酷暑や冬の寒さなど、多治見特有の気候を踏まえた備蓄（冷感グッズ、毛布、簡易暖房機器など）の対応は進んでいるか。 ・指定避難所の空調設備の現状と今後の普及施策について。 ・平時からの利用に生かせる避難所施設の設備（フェーズフリー）について。
質問項目③	地域防災力の強化について ・松山市は、防災士 1 万人を超える規模で養成され、地域防災力向上に寄与している。本市における防災士の養成数（推移を含む）、今後の普及促進策、役割の位置づけは如何に。 ・さらに、自主防災組織や町内会との連携をどのように強化していくのか。災害時に行政だけでなく住民主体で「共助」が発揮できる体制をどのように築いていくのか。
質問の相手方	市長、企画部長